研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-141		19-308	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Telehealth Treatment for Alcohol Misuse: Reviewing Telehealth Approaches to Increase Engagement and Reduce Risk of Alcohol-Related Hypertension

アルコール乱用のためのテレヘルス治療。アルコール関連高血圧のリスクを低減し、関与を高めるためのテレヘルスアプローチの見直し

執筆者

Dan V Blalock 1 2 3, Patrick S Calhoun 4 5 6 7, Matthew J Crowley 4 8, Eric A Dedert 4 5 6 7

掲載誌

Curr Hypertens Rep. 2019 Jun 17;21(8):59.doi: 10.1007/s11906-019-0966-3.

キーワード	PMID:
アルコール乱用;アルコール治療;コンティンジェンシー管理;高血圧;モバイルヘルス;テレヘルス CBT。	31209579

要　旨

目的：　アルコール乱用に対するテレヘルス（遠隔健康）介入は、アルコールの過剰摂取に伴う血圧の上昇のため、高血圧の集団において特に影響力を持つ可能性がある。本レビューでは、アルコール乱用に対する新たなテレヘルス介入を検討し、治療プロセスの段階に応じて分類する。

最近の知見：　テレヘルス認知行動療法（CBT）のエビデンスは予備的なものであるが、効果的であり、治療へのアクセスが増加することが示唆されている。危機管理（CM）に関するエビデンスは増加しており、アルコール乱用に対する CM のモバイル適応は、初期の断酒誘導に効果的であることを示唆している。モバイルヘルス（mHealth）のテキストやアプリケーションに関するエビデンスは大きな変動があるが、一般的にはアルコール誤用の減少と再発防止に効果的であることを示唆している。アルコール誤用に対する遠隔健康介入のばらつきは、結論の実施を妨げる可能性がある。特定の遠隔健康介入をアルコール乱用治療の段階に合わせ、影響の大きい集団（すなわち、高血圧患者）に焦点を当てることで、集団の健康に対する利益を最大化することができるかもしれない。